

対面への転換と実践

教育学研究科 白松 賢

1 授業の目的と内容

本授業では、教職への一体感を目指して、教育法規、教育原理、教育史、教師の生活世界についての概論やディスカッションを通して、基礎的知識・理解を深める。また自己の適性について自己評価する。

2. 昨年との反転型と対面型の比較

昨年度は、クラス分けを行い、遠隔授業（知識理解）と対面授業（思考・判断・表現）を実施した。クラス A（小学校）、クラス B（中学校、特支、幼年）のコース・サブコースで二つに分けた。

具体的には、前半の 8 回について、知識理解に関わる内容（中間テスト）については繰り返し学習ができるように、Stream を活用して動画学習を各クラス交互に 4 回ずつ受講できるようにした。またその動画学習を受けて、対面クラスでは、動画学習内容を踏まえて、ディスカッションができるようにした。その後、後半 8 回の授業では、共通回を対面で受講し、思考・判断・表現に関する資質能力や興味・関心・意欲、態度に關関する資質能力を高める内容を中心に構成した。

これに対して、本年度は、完全対面型に戻して

実施した。

3 DP 対応調査の結果から

対面に戻した理由は、ダイバーシティ対応の字幕が間に合わないことから、対面での支援の方がより有効と考えたためである。

DP 対応調査の結果を見ると、一昨年度に近い結果となった。一昨年度は、遠隔を中心としていたことから、一斉型の授業も、遠隔型の授業も、一斉方式には変わりがなく、そのため、同様の結果となることが推察される。また、反転型の導入によって、クラス分けでのディスカッションや発表を取り入れることで、授業効果が高くなる可能性が示唆される。

一方、一昨年との遠隔型に比べると、「あまりそう思わない」という回答が若干減少している。また、技能については、グループディスカッションの手法を教育したことが影響しているかもしれない。ただし、今後、多様な実践を入れながら、検討を加えていきたい。

	年度	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	DP対象ではない	計
知識・理解：教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している	R5	55.9%	37.1%	7.1%	0.0%	100.0(170)
	R4	71.8%	26.4%	1.8%	0.0%	100.0(163)
	R3	55.6%	36.8%	10.5%	0.0%	100.0(133)
技能：教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている	R5	43.5%	45.3%	10.6%	0.0%	100.0(170)
	R4	22.6%	10.7%	0.0%	66.7%	100.0(168)
	R3	36.8%	47.4%	18.0%	0.8%	100.0(133)
思考・判断・表現：教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる	R5	41.8%	48.2%	10.0%	0.0%	100.0(170)
	R4	59.5%	39.9%	0.0%	0.6%	100.0(163)
	R3	43.6%	47.4%	12.0%	0.0%	100.0(133)
興味・関心・意欲、態度：教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする	R5	61.2%	33.5%	5.3%	0.0%	100.0(170)
	R4	74.2%	23.9%	1.2%	0.6%	100.0(163)
	R3	67.7%	32.3%	3.0%	0.0%	100.0(133)